

「課題研究」学習指導案

実施日時：平成29年12月8日（金）第3限目

実施学級：園芸科学科

実施場所：八代農業高等学校 視聴覚室

授業担当者：教諭 宮本 陽造

教諭 竹本 真也

講師 山下 良

1 授業題材「課題研究中間発表会」

2 題材観

科目「課題研究」は農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることが目標である。

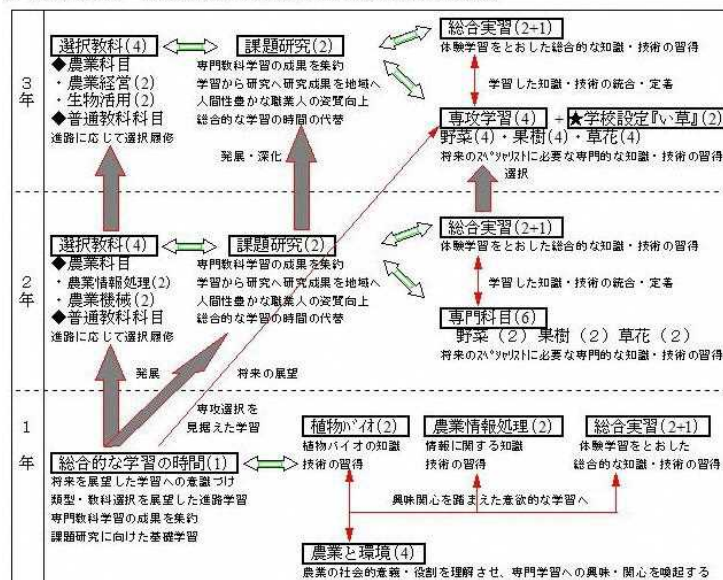
本校では総合的な学習の時間の代替もしており、さらに、学び方やものの考え方を身につけ、探究活動に主体的・創造的・協同的に取り組んでいる。

園芸科学科では「農業経営者」を育成するという学科の特色に応じて、計画、播種、生産から販売まで農業経営の一連に取り組んでいる。「達成型プロジェクト学習」（一人一畑一経営）の中で「思考力・判断力・表現力」の育成を図り、発表会を行うことで「表現力」を高め、1年次の基礎、2年次の定着、3年次の応用につなげ、学習成果をより確実なものにする。

3 系統観

1年次、「農業と環境」「総合実習」「農業情報処理」の各科目で連動し、プロジェクト学習の手法を習得させ、2年次の「総合実習」「課題研究」で定着、3年次の専攻学習、「総合実習」「課題研究」で応用と系統立てた学びを展開させることで園芸科学科の目指すスペシャリスト像（農業経営者）に必要な力を自らの経験から見出し、思考力・判断力・表現力を高め、目指すスペシャリスト像の実現を図りたい。

○ 園芸科学科 各科目相互の関連性（縦の関連と横の関連）



4 生徒観

園芸科学科2年15人（男子14人，女子1人），である。

1年次の一人一畑一研究で栽培に携わったものの，さらに発展的な一人一畑一経営で計画から販売まで挑戦するのは初めてである。1学期，2年生の野菜専攻生5人の中で販売までできたのは1人で，基本的な栽培技術の習得が必要である。失敗が多い中，意欲低下を防ぎ，達成感を得られるような指導方法や評価方法を工夫する必要がある。

5 指導観

1年次の基礎，2年次に学習する「野菜」「果樹」「草花」の知識技術を活用し，「一人一畑一経営」に取り組み，栽培技術の定着や農業経営の改善等，農業経営者に必要な力を身に付けたい。（一人一畑一経営は野菜専攻生と草花専攻生の一部が取り組んでいる）

主体的に取り組むことで生徒同士の対話（協働）や課題解決に向けた教師との対話を促したい。また，本時は3年生「課題研究」，1年生「農業と環境」の合同授業を行うことで系統性をより高めたい。

6 目標

- （1）八農祭で販売できる
- （2）当期純利益を出す
- （3）農業経営や栽培上の課題を説明できる

7 評価規準

思考・判断・表現	
（1）八農祭（11月12日）にあわせて栽培計画を立て，販売できる農業生物を栽培している。	
（2）栽培，支出，収入の状況を考慮しながら当期純利益を出すことができる。	
（3）農業経営や栽培上の課題を観察や記録から考察し，説明することができる。	

8 評価基準

A	八農祭で販売するという目標を達成できた。
	利益を出すという目標を達成できた。
	農業経営や栽培上の課題を説明できた。
B	八農祭で販売する，利益を出すという2つの目標どちらかを達成できた。 農業経営や栽培上の課題を説明できた。
C	目標を達成できなかったが，農業経営や栽培上の課題を説明できた。
D	目標達成できなかった。
	農業経営や栽培上の課題を説明できなかった。

評価者評価で「B」以上を全体の80%以上を目標とする。

9 指導と評価の計画

- 【1】課題設定と計画……………4時間 座学
 【2】プロジェクトの実際（調査等含）……40時間 実習
 【3】データ整理，発表準備……………16時間 座学・実習
【4】中間発表会……………2時間 発表 ←本時
 【5】プロジェクトの整理・反省・評価……………3時間 座学
 【6】プロジェクト学習成果発表会……………2時間 発表
 【7】プロジェクトのまとめ・反省・評価……………3時間 座学

	○ねらい □学習活動	評価の観点				評価方法等
		関	思	技	知	
【1】	○農業生物の生育過程や特性，流通を理解し，必要な管理作業と関連付けてプロジェクト計画を立てる。 □教科書やワークシートを使って計画し，課題を設定する。	●	●		●	ワークシート
【2】	○計画に従って，栽培から販売まで行う。 □実習を中心に管理・販売をする。		●	●		日誌
【3】	○プレゼンテーションソフトにまとめ，振り返る。 □プレゼンテーションソフトにまとめる。		●	●		
【4】	○発表で学習成果を評価し，深める。 □視聴覚機器を使用し発表する。		●			自己評価，評価者評価，生徒評価シート
【5】	○評価を受けて，本発表に向けて改善，考察等を深める。 □考察を行い，まとめなおす。		●			観察
【6】	○プロジェクト学習成果発表会でさらに定着する。 □発表会		●			自己評価，評価者評価，生徒評価シート
【7】	○プロジェクトのまとめ・反省・評価することで次年度の課題につなげる。 □評価表等を参考に振り返る。		●			ポートフォリオ評価

※関：関心・意欲・態度，思：思考・判断・表現，技：技能，知：知識・理解

10 本時の展開について

(1) 本時の目標

農業経営や栽培上の課題，学んだことを1つ表現できる。

(2) 観点別評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	農業経営や栽培上の課題や学んだことを1つ表現できる。		

(3) 目標達成に向けた本時の学習計画

	学習活動	指導内容	指導上の留意点 [●…個への支援]	評価の観点			
				関	思	技	知
導入 10分	1 挨拶		○職員が生徒を観察，服装等を正しくさせ，号令後の礼を徹底し，授業を受ける態度を徹底する。 ●画面が見やすく，支援しやすい所に着席するよう指示する。 ○本時の流れを視聴覚機器で説明する。また配付資料と活動日誌の記入方法を確認する。 ●職員が指差し等で配布資料や活動日誌の記入箇所を確認する。 ○発表を聞く生徒の意識付けを徹底する。				
	2 配布資料の確認と活動日誌の記入 (本時の目標) 農業経営や栽培上の課題，学んだことを1つ表現できる。	発表会の目的と目標を提示する。					
展開 30分	3 プロジェクト学習中間発表会 発表者 1年： 2年：(野菜) 3年：(野菜) 司会者：(3年)	生徒が主体的に運営，発表する。 ※事前指導を徹底し，適宜助言する。	○発表は約10分程度とする。 ○視聴覚機器と机間指導で，記入箇所等を再確認，徹底する。 ●職員が指差し等で記入箇所を確認する。		○		

まとめ 10分	4 自己評価，気付きを書く。		○本時の目標に対して達成できたかどうかを自己評価する。 ●指差しや口頭で指示し，達成状況をその場で確認する。				○
	5 次時の予告 （プロジェクト学習中間発表会の反省と今後の計画）	評価表を発表者にフィードバック，考察を行い，まとめなおさせることを予告する。					
	6 挨拶		○服装等を正しくさせ，号令後の礼を徹底させる。				

到達度ランク	評価基準
A	3つの発表の農業経営や栽培上の課題，学んだことを1つずつ表現できた。 気付きで学びをさらに深めることができた。
B	農業経営や栽培上の課題，学んだことを1つ表現できた。
C	助言を受けて3つの発表の農業経営や栽培上の課題，学んだことを1つ表現できた。
D	3つの発表の農業経営や栽培上の課題，学んだことを表現できなかった。

※本時では自己評価で全員が「はい」，評価者評価で「B」以上を全体の80%以上を目標とする。